

群馬県高崎で日本料理のお店を営んでいるご夫婦が、仕事の都合で、どうしても夜の集会に出られない。でも、聖書をどうしても知りたい。今すぐ知りたいという思いが募って、「少しでもいいから、個人的に聖書解説をしてくださいませんか？」それで、この集会が始まる前に、1時間ほどお話をしました。とても感じの良いご夫婦で、聖書の話をするほど、顔がキラキラ輝いて行くのがよく分かりました。

どうしてワクワク・キラキラするのか？ 私たちの身体は、半年前に食べた食物で出来ているそうです。皮膚も爪も大腸も小腸も内臓も全部、新陳代謝で何日かで新品と入れ替わっていて、その材料は食べ物。今日の私の身体は、半年前に食べた食べ物に拠るんですね。

では、私たちの考えは何によって出来ているのでしょうか？ 今まで聞いて来た世界観・受け入れて来た歴史観・一般に言われている事の中で、「そうなんだ」と受け取った事で成り立っているのです。

否定的考えを浴びるように聞き、破滅的思想をずっと受け入れていたら、その人の人生観は恐らく破滅的なものになると思います。しかし、その人の人生観が美しく・前向きで・肯定的で・建設的なものなら、人生に向かって行く時の構えも違うでしょう。

私は読書が好きで色んな本を読みますが、人類に提供されている本の中で、最も美しく・最も肯定的で・前向きで・力ある言葉は聖書です。これから3日間4回、聖書のメッセージをお伝えしていきます。

ところで、このご夫婦は、私がやっているラジオ番組『聖書と福音』のCDを聞いてくださって、聖書の事を聞きたくなったのです。この番組は5月で1000回目のメッセージ。よう喋るわ。約19年。来年で20年。20年経つと長寿番組の仲間入りや。その中途半端な拍手、ありがとうございます。やるならやるとハッキリ…。いやいや、どうもありがとうございます。ノリがいいね。

でも、上には上がいて『子どもラジオ相談室』。放送が51年続きました。51年ですよ。今も『夏休み子どもラジオ相談室』で、一時的に再開される事があります。子供の質問、めっちゃオモロイ。突拍子もない質問に各分野の第一人者・専門家が答える、その答えがまたね…。科学者は自分の専門分野では、相手が子供でも情け容赦しません。

4歳のあかりちゃんという女の子が、かわいらしい舌足らずな言い方で、「ダンゴムシには、丸まるのと丸まらないのがあるけど、なぜ、このダンゴムシは丸まらないのですか？」どうする？ そんなん聞かれて。学者はすごいよ。「あのね、ダンゴムシはみんな丸まります。丸まらないのはダンゴムシそっくりの別の虫です。ワラジムシ。ほら、ワラジムシの特徴ってこうでしょ、ああでしょ。」電話でやり取りしているから、今、その子の手の平に乗っているワラジムシが見えないのにドンピシャ！「それが丸まらないのはワラジムシだから。ダンゴムシじゃないんだよ。分かった？」「はあい。」プロや！

2番目の質問は男の子。「僕、靴でアリの踏んだら黒い汁が出たんですけど、アリは潰れたら、どうして黒い汁が出るんですか？」どう答える？「あのね、アリの体の中には黒い液があるから、アリを潰したら黒い汁が出るんだよ。君も潰されたら赤い汁が出ます。」ちょっとそれ、5歳児に言うって、剛速球すぎひん？ 子供、固まってる。

別の男の子が、「人間には人間の病院があります。犬や猫には動物病院があります。なんで虫にはないんですか?」「すぐ死ぬから要らんのや。」子供が、ショックで言葉が固まっているのがよく分かる。科学者は専門分野ではっきりしている事はオブラートに包んで言わない。相手が子供でもズパッと語る。

昔、ある子供が「神様っているんですか?」この時には、先生方の中で譲り合いが始まりました。「あなたが。」「いや、あなたが。」「あなたが答えて。」最終的に、ある方が、「神様は、いると思う人にはいるんだけど、いないと思う人にはいないんだよ。」
そしたらその子が「先生はどっちですか?」追及の手が衰えない。
その先生は「いると思う時と、いないと思う時があります。」なんじゃ?それは。
「いると思う人にはいるけど、いないと思う人にはいない」というのは、思想上の、空想上の存在です。

聖書は何と言っているか?「いない神と、いる神がいる。」
人間が作った宗教の神々は、どんなに長い歴史・伝統があったとしても、そんなものはいない。しかし、人間を・この全天全地を造った方・自然界の全ての第一原因者である方はおられる。あなたの作者・あなたの魂の親である方。聖書はこの方を神/創造主と語るのです。

創造主は本当におられるのか、おられないのか?
私自身がどのようにして確信したかという、聖書の預言なんです。
聖書には色んな良い事も書いてます。右のほっぺた叩かれたら、左のほっぺたも出しなさいとか、実行不可能な、道徳みたいな事も書いてある。

だけど、聖書は預言の本です。これから世界がどう動いていくかについて、前もって語っている本。そして、それを聞いた人が信じていてもいなくても、聖書の預言は粛々と実現していく。人間の信仰に寄りかからない。事実として、聖書自体が起立して、神の言葉がことごとく実現して来たのが今までの歴史です。

今日は、これからの事ではなく（これからの事は説明できるけど、証明のしようがないので）、今までに預言されていて、既の実現した聖書の箇所を紹介する事によって、創造主なる神がおられるという判断材料を提供したいと思います。

ダニエル書 11:2 今、私はあなたに真理を告げる。見よ。なお三人の王がペルシアに起こり、第四の者は、ほかのだれよりも、はるかに富む者となる。この者がその富によって強力になったとき、全世界を、とりわけギリシアの国を奮い立たせる。

私は、神様がこれからの事を告げ知らせるために遣わした御使い・天使・神からの使者。
あなたはダニエル。ユダヤ人の預言者。ダニエルは、神が遣わした御使いから真理を告げられました。

いつ告げられたのかという今。それは、ペルシアの王キュロスの第三年。
ダニエル書 10:1 ペルシアの王キュロスの第三年に、ペルテシャツアルと名づけられていたダニエルに、あることばが示された。

ペルシアは今のイランです。大きな国で、全盛期にはインドからエチオピアまで全部ペルシア。ものすごく豪華絢爛の国で、正式にはアケメネス朝ペルシア。
これを造った創立者・建国の父・初代の王がキュロス王。彼が王になって3年目が第三年。BC536年です。

ダニエル書 11:2 今 (BC536)、私 (神の使者) はあなた (ダニエル) に真理 (これから世界にどんな事が起こるのか) を告げる。見よ。(キュロスの後)なお三人の王がペルシアに起こり、第四の者は、ほかのそれよりも、はるかに富む者となる。

高校で習った世界史の教科書を見ると、どの教科書も、ペルシアの絶頂期・黄金時代の王様はギリシア名でクセルクセス王。ヘブライ語ではアハシュエロス王。同一人物です。彼の奥様はユダヤ人女性で、絶世の美女エステル。

この時、インドからアフリカまで全部ペルシアになり、史上最大のペルシア帝国はクセルクセス王の時に実現します。第四の者 (クセルクセス王)は、ほかのそれよりも、はるかに富む者となる。

ところが、ありとあらゆる文書を調べても、クセルクセス王は初代のキュロス王から数えて 4 番目。聖書では 5 番目。どちらが正しいのでしょうか？

これを検証するために、ペルシアについてお話したいと思います。

キュロス王はエピソード満載の男です。キュロスについて話させたら、一晩中でも黙らないよ。キュロスには 2 人の息子と 2 人の娘がいます。

長男はカンビュセス。カンちゃん。弟はスメルディス。スメオ。

カンビュセスが兄なのでキュロスの後継者。大きなペルシア帝国の 2 代目の王。しかし、彼は非常にわがまま・怒りんぼ・好色。おまけに被害妄想家。親は偉大だけど、子育てで、どうも失敗したみたい。偉大すぎる父の息子。期待に押し潰されたというのもあるかもしれないけど、いずれにしてもカンビュセスは相当ヤバイ人。

カンビュセスは王になった時、法学者たちを集めて「自分の姉と結婚したい。」姉はアトッサという絶世の美女。ペルシアの法律では兄弟間の結婚は許されない。だけど今や王様。法学者たちに相談したら「王よ。我がペルシア帝国には法律がありません。それによると、ペルシアの王はどんな願い事でも叶えて良いとあります。」ヨイショ。正義を貫いたら首が飛ぶと思ったんでしょう。詭弁を弄して。

それで、お姉さんのアトッサと結婚し、誰も文句を言わないので、第 2 夫人を娶る事にしました。誰かという妹。気色悪いわ。カンビュセスは「俺のやる事に、誰も文句ないよな!」という感じ。

彼にはお父さんに対するコンプレックスがあったので、父ですら成し遂げられなかった事…、アフリカ制圧をしたかった。当時エジプト人は動物を神々と信じていました。犬も猫も拝む。動物はみな神々の使い。そこでカンビュセスは、ペルシア軍の先頭に動物を持たせた。「お前ら、戦えるんか？ 動物死ぬぞ。」軍を率いてエジプトに遠征し、色々策略やって、破竹の勢いで、やがてエジプトを制圧しました。

ペルシアを留守にする間、国を守らせるため、マゴス (マジシャンの語源) の兄弟に「政治がストップしないように国を回しとけ。」アメリカなら大統領首席補佐官・日本なら官房長官、安倍さんに於ける管さんみたいな立場がマゴスです。

カンビュセスはある日夢を見ました。弟のスメルディスが、長い間ペルシアを留守にしている自分を裏切ってクーデターを起こし、王になるために国を転覆しようとしている、いや、するんだ!という夢。非常に生々しい夢。だけど夢。しかし、彼は大変に被害妄想的人物。それで、信頼している部下をペルシアに送り、スメルディスを暗殺させます。

カンビュセスは妻である妹をエジプトに同行させていました。2人で休んでいる時、大人の犬がライオンの子供とケンカを始めて、子供でもライオンはやっぱり強いから、犬の方が劣勢になって来る。すると、犬の悲鳴を聞いたその犬の兄弟犬が加勢に来て、2対1で子供ライオンに噛みつきまくった。

その光景を見た時、お妃（妹）が泣いたんです。「こんなシーン見て、何で泣いてんねん?」「スメルディスを思い出しました」と、つい言ってしまった。カンビュセスの顔色が変わります。「どういう事や? 動物の世界でも、兄弟は力を合わせて強大な力に立ち向かって行く。だが、動物よりはるかに優れているはずの俺は弟を殺した。俺は獣以下だと言いたいのか?!」彼女をエジプトで処刑しました。カンビュセスはヤバイ。いっちゃってる。

カンビュセスは具体的証拠があってスメルディスを殺したのではなく、夢で見たという事を根拠に暗殺させた。それをマゴス兄弟が知った時、「血を分けた妹や弟ですら、気に入らなければ平気で殺すような王は、部下や一般国民には、もっと残虐な事を平気でやるだろう。ペルシアは駄目になる。」

それで、スメルディスが暗殺された事が知られる前に、マゴス兄のガウマータが彼に成りすました。顔がそっくりだったんですね。僕は昔、桂文珍に似てると言われましたよ。皆さんも、赤の他人だけ似てるといふ人いるんじゃない?

ガウマータは偽スメルディスだけど、「俺は本物のスメルディスだ。カンビュセスの王位は俺が奪った。これからは**スメルディス**が王だ!」早馬を飛ばして、全ペルシアに通知しました。

それがエジプトにも届いて、カンビュセスも聞きます。「暗殺失敗したのか?!でも今なら挽回できるかも」と、エジプト攻撃作戦を全部中断し、ペルシア大軍を率いて、ペルシアを武力で奪還しようとするのですが、馬に乗る時にアクシデント。自分が差していた剣のさやが割れ、あっと屈んだ時に、剣が脛の深い部分にザクザクっと突き刺さった。一旦養生するけど、猛烈なバクテリアが入って、やがて全身腐って行き、のたうち回って死にました。

カンビュセスは消え、スメルディスはいない。偽スメルディスは「自分たちの欲望のためではない。これはペルシアのためにいい事だ」と本物に成りすまして、7か月間ペルシアの王様です。

ところが「何かおかしい。臭うぞ。怪しいぞ」と気づく名門貴族がいました。オタネス。彼はカンビュセスの妻だった娘と連絡を取ります。偽スメルディスは王になった時、カンビュセスの妻や妾を全員自分のものにしました。だから娘は今、偽スメルディスの妻です。「あれは本物のスメルディスか?」と聞いたら、「父上、私はスメルディス様を見た事がなかったので分かりません。」「知らんの?!」

ならば、カンビュセスの第一夫人だったアトッサ、彼女はスメルディスのお姉さん。「アトッサ様に聞いてくれ。」「無理です。アトッサ様は隔離されています。誰も面会できない所に閉じ込められてて会えません。スメルディス様が王になってから。」いよいよ怪しい。

「それなら、夜に呼ばれてスメルディスが熟睡したら、彼の耳を手で触ってみ。」マゴスのガウマータは、キュロス王の時に致命的大失敗を犯したので、罰として王自身に両耳をそぎ落とされたのです。昔の王様、めっちゃ残酷。耳ないねん。あれば本物、無ければ偽者。で、触ったら、無い。偽物だと掴んだ。それでオタネスは、信頼できる6人の仲間を集めて7人貴族同盟を作り、偽スメルディスを見事に打ち滅ぼしました。

この中で、中心的役割を果たしたのがダレイオス・ヒュスタスパス。名前は覚えてたら便利。

「ダレイオスって誰イオス？」あかん？

彼はキュロス王の叔父さん。キュロス王は、2人の息子が死んでしまったので血縁がいません。

ダレイオスは「俺は遠い親戚だけど血が繋がっている。しかも、キュロスの長女アトッサを妻にする。」ペルシア中の人が「それやったらいいわ」と。こうしてダレイオス・ヒュスタスパスが4番目の王になります。そして、アトッサとダレイオスの間に産まれるのがクセルクセスです。

つまり、一般の歴史書でクセルクセス王が4番目になるのは、歴史と伝統ある素晴らしいペルシア帝国で、わずか7カ月とは言え、政治を乗っ取られたという事を記録するのは恥だと考えたのです。なので、偽スメルディス王の時代をカウントしていない。しかし聖書は、「偽者だろうが何だろうが、7か月間ペルシア帝国の王位に君臨したので彼も王である。」だから彼も入れて、クセルクセス王は5番目。

* <キュロスーカンビュセスー（偽）スメルディスーダレイオスークセルクセス>

聖書はペルシアの歴史家以上に正確で、しかも、歴史が起こってから書いているのではなく、それが起こるはるか前に預言するのです。

ダニエル書 11:2 この者がその富によって強力になったとき、全世界を、とりわけギリシアの国を奮い立たせる。

クセルクセス王の前のダレイオス王は、莫大な資金を先行投資して、ペルシア中に幹線道路を引きました。「全ての道はローマに通ず。」東洋世界に於いては「全ての道はペルシアに通ず。」

インドからエチオピアまで、全てペルシアの中央都市に行くように幹線道路を繋いで、物流・通信・貿易・徴兵・納税で非常に効率の良いシステムを作り上げたのですが、その段階で死んでしまいました。

それを引き継いだクセルクセス王の時代は、世界中の富が黙ってても集まって来る。

彼はやらんでもいい事をやるんです。大金持ちになり、東洋世界で誰も文句を言わなくなった時、野心が出て来て「西洋世界にチャレンジしようじゃないか。」

東洋と西洋はどこが分岐点ですか？ アナトリア半島にトルコがあります。そこにボスポラス海峡・ダーラネス海峡があって、そこから東が東洋・西が西洋。その海峡を越えて西側、西洋世界の玄関口にある国がギリシア。クセルクセスは「もう東洋にはペルシアに逆らう国はない。今度は西洋に行って世界制覇だ!」とギリシアに行って戦争を始めますが、これが大失敗。

彼は30万人の軍隊を引き連れてギリシアになだれ込みます。ギリシアで最強軍を持つのはスパルタ。

スパルタ教育。スパルタで赤ちゃんが産まれると、胴回り・足の長さ・体重・目の色・頭蓋骨の直径の基準があって、それに合致しないと、皆産まれたてで捨てる。強い兵士だけが必要。戦闘ポリス。それが陸軍大国ペルシアと戦って、スパルタ全滅。

だけど、ペルシアは陸軍国家なので海軍は弱い。アテネ海軍の罨にかかって、ペルシア海軍はボロボロに敗北した。海軍が駄目になるという事は、陸軍が30万いたとしても、食糧・水・武器・弾薬その他諸々の兵站(へいたん)/補給路が海で絶たれてしまったら、30万餓死するのを指をくわえて、黙って見ているだけ。海軍が駄目になった瞬間「この戦争は負けた。」クセルクセス王はペルシアに帰りました。

この時、長男を戦死させています。この大戦争の失敗で、クセルクセスは二度とギリシアに挑戦する事はなく、これをピークに、ペルシアはどんどんダメになって行きました。

ダニエル書 11:2 この者（クセルクセス王）がその富によって強力になったとき、全世界を、とりわけギリシアの国を奮い立たせる。

クセルクセスは「もう戦争したくない。」残りの生涯と持っている富の全てを、ゾロアスター教の神殿に注ぎ続ける事で一生を終わります。その経済的負担が余りにも多すぎた事も、ペルシア凋落のきっかけになりました。

ペルシアは「ギリシアにもう関心ない。西洋世界は要りません」と言ったけど、問題は、ギリシアの方が放っといてくれへんかった。「昔ギリシアに攻め込んでくれて、ようやってくれたな。倍返しや。」そんな風に言ったんじゃない。分かり易く言ってるんですよ。

ダニエル書 11:3 一人の勇敢な王が起こり、大きな権力をもって治め、思いのままにふるまう。

ギリシアから出る勇敢な王とはアレクサンドロス王。彼が王になったのは 20 歳、BC336 年、ペルシアの王キュロスの第三年から数えてちょうど 200 年後です。

ペルシアから見て、キュロス王の第 3 年から 200 年先に、ギリシアからとんでもないカリスマ/スーパースターみたいな王が出て来て、思いのままにふるまうという事まで預言しているのです。

アレクサンドロスという男は、これまた、もう英雄。はたちで王様。ただの王様とちゃう。若い時の家庭教師は、あのアテネの哲学者アリストテレス。彼と十数人の友人たちがアリストテレス私塾で帝王学を学び、2 年間でギリシア全土を平定しました。

22 歳になった時、「ペルシアよ、広大な領土は全部俺の物だ。皆、ペルシア討伐について来い!」「王様、ついて行きます!」「まずは先祝い、しよ!」出発前に部下たちにプレゼント。「あそこの荘園、森は君にあげる。あの泉は君に。あの広大なオリーブ畑はあなたに。あの近代国家の大きなポリスはあなたに。」アレクサンドロス王は持っている多くの不動産を、ついて行くと言う部下たちに全部上げてしまい、遂にすっかんぴん。心配した部下たちが「王よ、あなたには何も残らないじゃないですか。」「いや、私には希望が残っている。」カッコイイ!

アレクサンドロスは破竹の勢いでペルシアを制圧し、結局ペルシアは彼の物になります。彼は 10 年間戦い続け、次はインドを制圧しようとするのですが、ギリシアから連れて来た兵士たちが、「ちょっと王様、私ら国出て 1 回も家に帰ってませんで。10 年間戦い続けて、いつまで戦争するんですか? そんなにインド行きたいんやったら行って下さい。私ら帰るから!」兵士が言う事を聞かない。それで諦めて、インド平定をやめました。

ダニエル書 11:4 しかし彼（アレクサンドロス王）が起こったとき、その国は崩壊し、天の四方に向けて分割される。その国は彼の子孫のものにはならず、また、彼が支配したほどの権力もなくなる。彼の国は根こそぎにされ、その子孫以外の者のものとなる。

それから間もなく、アレクサンドロス王は熱病にかかって 33 歳で死にます。死ぬ時に、部下たちが「王様、この広大なアレクサンドロス大帝国は誰が受け継ぐのでしょうか?」アレクサンドロスの奥さんのお腹には赤ちゃんがいたけど、まだ産まれてない。彼は「最もふさわしい者に…。」人騒がせな言葉や。部下たちは皆、自分が 1 番ふさわしいと思っている。それで、この帝国は 4 つに分割されます。その国は崩壊し、天の四方に向けて分割される。

その国は彼の子孫のものにはならず。アレクサンドロスには、やがて息子が産まれますが、毒殺されておしまい。アレクサンドロス帝国は4つに分割されました。その通りの事が書いてあるのです。

これは200年以上後に起こる事。この後、人類歴史の最後に至るまでの事が、11章全体を通して詳しく語られています。ダニエル書11章は、これからの世界情勢を考えていく上で、絶対に外せない終末預言の肝となっている箇所なんです。

今日は、立証できる・既に起こった部分だけをご紹介します。

キュロスから5番目とか、その全盛期にギリシアに負けるとか、その後ギリシアからスーパースターみたいな人が出て国を平らげるけど、それは4分割されて自分の息子の物にはならないとか。ここで詳しく詳しく書いてある事は全部、1つも漏らす事なく、ことごとく実現しました。

ところが、ある方々は、これを読んで「すごい。聖書は神の言葉だ」と言わずに、「当たり過ぎ」「的中し過ぎ」「こんな細かな所までドンピシャで当たるって変」と。「変なのはお前だ」と言いたいんですけど。「微に入り細に入り、預言できるはずがない。これはBC536年に書かれたんじゃなく、BC150年くらいに書かれたんだ。」

つまり「こういう事が全部歴史的事実になった後で、BC2世紀くらいのある人物が、BC6世紀のダニエルの名を名乗って、さも昔から預言していたかのように装っているだけだ。」

人間て、何でそんなに素直じゃないの? 「そんなのあり得ない。当たり過ぎているから信じない。」成就してないように見えたら「成就してないから信じない。」当たったら「当たったから信じない。」どうしたらいいの?これ。人間て…。

「ダニエルなんか架空の人物や。そんなん、おれへんかったんや。昔の素振りをしているだけや。」それはあり得ない事です。いくつかあるけど、2つだけ紹介しますね。

1) 1世紀にヨセフスというユダヤ人歴史家が出て、古代ユダヤの文献を調べ、『古代史』という本を書きました。これは僕の愛読書です。そこに書いてある事です。

アレクサンドロスという王様が破竹の勢いで世界中を回る時、行った先で必ず聞く事がありました。「お前たちはペルシア帝国の一員だが、反乱するつもりはあるか? あるなら優遇したる。でも、あくまでもペルシアに忠誠を尽くすのなら、踏み潰して全滅さすぞ!」実際、その通りの事をやって来ました。

ペルシア帝国の一員だったユダヤの国は、あくまでもペルシアに忠誠を尽くし続けます。そんな選択をした国は全部潰されました。しかしアレクサンドロスは、ユダヤの国については優遇策を取っている。

なぜか? ヨセフスの『ユダヤ古代史』によると、アレクサンドロスがユダヤに攻め込んで来た時、大祭司ヤドアという人が彼にダニエル書を見せた。

「アレクサンドロス大王様、我々が神から頂いた預言書『ダニエル書』の中に、あなた様の事が預言されています。あなたは我々の聖典である旧約聖書の中に登場する、預言されている人物です。そして、あなたはペルシアに勝ちます。なぜなら、聖書にそう預言されているからです。」

アレクサンドロスは気分いい。で、潰すのを止め、ユダヤ人から税金取るのを止めました。なぜ、ペルシアに忠誠を尽くしていたユダヤに、そんな優遇策を取るのか? 何かのついきならない理由がない限り、そんな態度を取る事はあり得ない。ヨセフスは「ダニエル書を出したからだ」と言っています。

2) エゼキエル書 14 章。エゼキエル書は、ダニエル書が書かれたのとほぼ同じ時代、今から 2600 年ほど前に書かれました。あらゆる学者が、エゼキエル書は BC6 世紀に書かれたという事を認めています。

エゼキエル書 14:14 たとえ、そこにノアとダニエルとヨブの、これら三人の者がいても、彼らは自分たちの義によって自分たちのいのちを救い出すだけだ—神である主のことば—。

これは「ユダヤ人たちが余りにも罪深いので、神はもうお赦しにならない。たとえ、ノアとダニエルとヨブの 3 人が『赦してやって下さい』と祈ったとしても、神は聞かないぞ」というメッセージです。

「BC6 世紀に書かれた」と全ての学者が承認しているエゼキエル書に、ダニエルという当時の人物の名が出て来るので、ダニエルは架空の人物じゃない。架空の人物なら引用できないから。ダニエル書は本物。

そんなややこしい証明の仕方じゃなくても、イエス・キリストご自身が「預言書ダニエルにこう書いてある」と引用している。もしダニエル書が架空で嘘なら、イエス・キリストが騙されている事になりますよ。

いずれにしてもダニエル書は、これから世界にどんな事が起こるかを、前もって BC6 世紀に書いた、紛れもない本物の預言書です。

そこに語られていた通りの事が、古代中東世界に於いて実現して来たとし、今もなお、ダニエル書の預言は完結してません。続きがあるんです。その続きに向かって、今動いているんですよ。すごい預言書です。

「いると思う人にはいるけど、いないと思う人にはいない。それが神だ。」それは、思想上の架空の存在。でも、信じようが信じまいがお構いなしに、聖書に書いてある預言が肅々と全て実現して行くのを見る時、「神の言葉は本物なのだ」と認めざるを得ないではありませんか？

我々が信じても信じなくても、そんな事に影響を受けない。神の言葉は成る。

ここに書かれてある事は、ことごとく、細かな部分に至るまで全部実現する。

既実現したパートを切り取ってご紹介しました。最後に 1 つお話して 1 回目を終えたいと思います。

昨年 11 月、アメリカのアリゾナ州で、ちょっとした誘拐未遂事件がありました。

小学生の女の子が学校から帰っている時、車が止まって、ドライバーが窓から「大変だ。早くこの車に乗りなさい。弟が交通事故で瀕死の重傷で、今病院で大手術している。お母さんは目を離す事ができないから君を連れて来て、と頼まれた。一刻を争うから早く乗りなさい。」

でも、見ず知らずの男性なので躊躇していると、「弟と死に別れてもいいの？ お母さんが呼んでるんだよ！」その時、彼女が「合言葉は？」この家庭では、前もって合言葉を決めていた。見知らぬ人に声をかけられた時、合言葉を言えたら、その人は親の承認の下に遣わされた人。言えない人は偽者。スメルディス。

親は子供に最悪の事が起こってほしくない。賢い親は、最悪の事が起こった時に、そこから逃れる事ができる言葉・解決策を前もって教えて行くものです。

神様は私たちをお造りになった方。

一人ひとりを愛しておられ、私たちの身の上に最悪の事が起こるのを望んでおられません。

最悪から逃れるための鍵の言葉を福音と言います。

私たちにとって最悪の事は、一度死んで、死後に裁きを受ける事。
この最悪の事から逃れるための合言葉・鍵の言葉・福音を聖書は提供しているのです。

「福音は信じるに値する」という事の1つの根拠として、聖書預言の真実性をご紹介しました。
初日の夜から、歴史の事を言い過ぎてごめんね。好きだから。でも明日から控えるよう頑張ります。
が、どうぞ、ご判断なさって下さい。
そして聖書を通して、是非、救い主イエス・キリストと出会って下さいますように。
そのような素晴らしい事が起こることを、神様に期待しています。



- * 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」検索。ぜひ観て下さい。
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。

動画筆記 : Rumi